



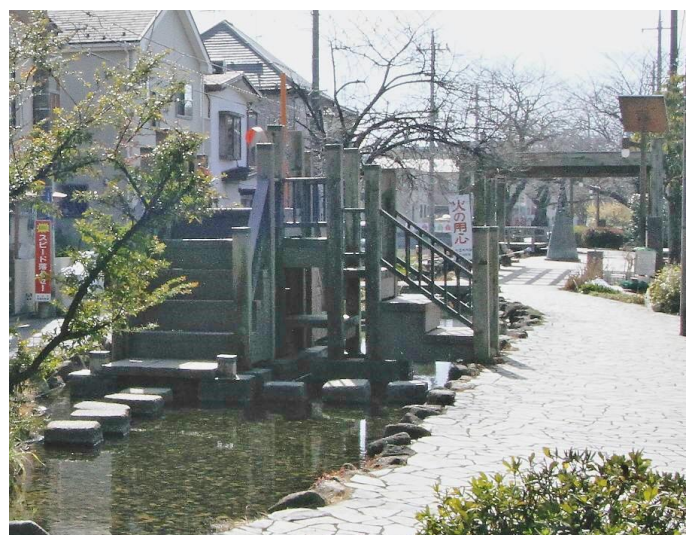
せせらぎの小径

今回は、せせらぎの小径といろは通りと新河岸川に囲まれた三角形の地域を散策しました。



せせらぎの小径は、幅はあまり広くありませんが、サクラの並木となっているのと水路が緩やかに蛇行しながら流れていて、ささやかながら水と緑の空間を提供してくれています。いろは通りから歩いていくと、トイレがあり、しばらく行くとベンチもあります。せせらぎの小径を整備する時には、既に予定されていたのか和光富士見バイパスが横断するあたりには、水路がありません。いろは通りに向かう側の予定地は、高い色褪せた土木工事現場や産業

廃棄物の保管所のような鉄板に囲まれていて、放置自転車の保管場所になっています。反対側の緑地となっている景観からすると、とても残念な形となっています。ここには、ベンチがいくつか置かれていますが、この鉄板を眺めるような向きになってしまっていて、ゆっくり眺めを楽しんで座れる場所ではありません。緑地の確保に至らなくても、せめて囲の鉄板に、緑豊かな風景を描いておくとかの工夫があるかないかで、まちの価値は大きく違ってくると思います。更に進むと、小径の両側はサクラ並木となっていて、春が楽しみです。その先には、アジサイが植わっていたり、水路に



せせらぎの小径から
いろは通りと柳瀬川までの
自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄

橋が架かっていたり、しだれ柳が水路に垂れ下がっていたりや変化があるので、散策を楽しめます。また少し行くと、水路の幅が広がり、池のようになります。中には、飛び石を渡って、階段のある山型の小さな橋を渡れます。その先には、ヨシズ張のような日よけ棚があり、下には、ベンチがいくつかあります。ここは、座って眺めているのも楽しそうです。木々が緑で覆われるころには、鳥が水を飲みに訪れ、さえずりも聞こえて来そうです。また少し行くと、ほんのちょっとした広さではありますが、水路の上にデッキが張り出した川床のようなものがあります。まるで、全体が大きな箱庭といった感じで楽しい小径です。この小径は、最後には、新河岸川の旧堤防に出ます。せせらぎの小径の下には、大きな用水路があり、その上を流れるせせらぎの小径の水路は、手前の交差点で終了します。下を流れてきた用水路の水は、旧堤防の土手を潜り、わずかな距離ではありますが、新堤防までは水の流れが見え、新堤防を潜り新河岸川に注いでいます。せせらぎの小径から、排水処理場の横を通り、現在の新堤防にぶつかっています。惣囲堤の一部となっている江戸時代の旧堤防を上流側に行くといろは親水公園三日月湖ゾーンに出ます。この三日月湖は、新河岸川が



蛇行して流れていた時の名残で、現在の堤防と旧堤防の間に池のような形で残っています。現在は、田んぼとして使われています。三日月湖の土手にある広場には、健康遊具が設けられています。三日月湖の外側にも広い田んぼがあり、せせらぎの小径の通りまで広がっています。

もう一度せせらぎの小径に戻って、水路が終わった交差点を、新河岸川に並行していろは通りまで抜けている道を散策してみます。三日月湖を左手に、上流側



どんぐり公園

側に行きます。三日月湖側には、新しい住宅が沢山建っていて、小さな住宅地になっています。この住宅地の中

には、どんぐり公園という小さな児童公園も作られています。少し行くと、右手には、かなり広い農地が広がり、隣接する農家には、立派な水塚があります。左側にも農地が残されていて、すぐ先にも大きな木に囲まれた農家があります。その先は、道の両側に農地が広がっていますが、新しい住宅も立てられています。広い田んぼの低地には、土盛作業が行われている最中で、周りには分譲地販売の幟旗が、沢山建っていました。今回の散策地域の中では、緑地が多く残っているところですが、なくなりつつある状況です。その先で、いろは親水公園の富士下橋に繋がる道と交差しています。この通ってきた道と新河岸川の旧堤防との間には、もう一つ狭い道があります。農地の間を通っている道ですが、最近この道に沿っても住宅が建ち始め、売り出し中の家がありました。更に、いろは通りに向かって進むと、右手に狭い農地があり

せせらぎの小径

いろは通り

旧堤防



ます。手前左手ですが、通りに面しては家が建っていて見えませんが、家の裏に広い農地があります。いろは通りまで出て、左に曲がり、いろは橋に向かって歩き、信号の手前の細い道を折り返して歩いていきます。この道は、旧堤防に沿った道で、以前は、車もやつの道でしたが、住宅が大分増えて、道も広くなりました。更に行くと、左右に農地があり、秋には、いろは親水公園の旧堤防からも、ここの田んぼで収穫した稲をはぎ掛けにしている光景を見ることができ



ます。更に進むと、旧堤防との間にも家が増えて、緑地も少なくなりました。最後は、富士下橋からの道にぶつかります。